

令和4年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会

日時：令和4年6月29日（水）

午後2時～午後3時40分

会場：リオンホール（cocobunji WEST 5階）

出席委員 52人

【事務局】地域共生推進課長（新井），地域共生推進課担当職員（米田・松井）

次第

- 1 開会挨拶
- 2 市長挨拶
- 3 会長及び副会長の互選について
- 4 国分寺市地域福祉推進協議会の運営について
- 5 グループワーク「新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた取組の共有」
 - ・令和3年度もとまち公民館グループ企画事業より
“やっている人にきいてみよう”～子ども食堂から見えてくるみんなの居場所づくり～
 - ・これまでの活動と令和4年度の取組について

資料

（資料1）国分寺市地域福祉推進協議会設置要綱

（資料2）令和4年度国分寺市地域福祉推進協議会年間スケジュール

（資料3）令和4年度国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動情報・取組情報

（資料4の1）「地域福祉推進協議会に求めること」

（資料4の2）「地域福祉推進協議会委員の活動地域」

（資料5）国分寺市立公民館だより「けやきの樹」令和4年1月15日号

（当日配布資料）次第，令和4年度第1回地域福祉推進協議会参加者名簿，国分寺市地域福祉推進協議会の運営について，正誤表，資料4の2（差し替え）「地域福祉推進協議会委員の活動地域」

開会 午後2時

1 開会挨拶

事務局より開会挨拶及び資料確認を行い，併せて記録作成のための写真撮影及び音声録音について説明を行った。

2 市長挨拶

橋本副市長より市長挨拶を代読し，事務局の職員紹介を行った。

【市長挨拶文】

本日はお忙しい中，令和4年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会にご出席いただき，誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては，日頃より地域のために様々な形でご尽力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

今年度はさらなる地域福祉の推進のため，昨年度に引き続き応募いただいた方と，今年度より初めて応募いただいた方，合わせて64名の方に委嘱をさせていただきました。当市では，平成27年に策定した国分寺市地域福祉計画に基づき，互いに支え合い，誰もが自分らしく暮らし続ける地域づくりに向けた取組を推進しております。

また，昨年3月には，地域福祉計画実施計画後期になりますが，それと併せて成年後見人制度利用

促進基本計画、自殺対策計画及び再犯防止計画を策定し、地域福祉に属する施策の具体的な推進を図り、地域におけるセーフティネットの充実に向けた取組を進めているところでございます。

さらに令和5年度より、属性を問わない相談や多様な社会参加に向けた支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業の実施を予定しております。

本協議会における関係機関の協力体制や地域福祉コーディネーター活動を推進し、誰一人取り残すことのない地域共生社会の実現を目指してまいります。本協議会は、地域福祉を担っていただいている皆様の自由な意見交換、協議の場でございます。本協議会を通じて、新たな流れが生まれ、より一層地域のつながりが広がることを期待しております。

結びに、今後とも地域福祉の推進のため、また地域の支え合いのため、皆様のお力添えを申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

3 会長及び副会長の互選について

委員互選にもとづき、宮崎会長及び小川副会長の選出の確認を行い、拍手にて承認した。

【宮崎会長挨拶】

皆様、こんにちは。ただいま会長の推挙をご確認いただきました国分寺市民生児童委員協議会の宮崎邦子でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

会長として力不足ではございますが、今年度は小川副会長とともに本協議会の円滑な議事進行に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

令和3年度は、7月と2月に2回の協議会を開催することができました。コロナ禍の中、昼間の開催となりましたので、出席がかなわなかった委員の皆様には申し訳なく思っております。また参加者の安全面に配慮しながら、会議の準備を行っていただきました事務局の皆様にも感謝を申し上げます。

昨年度は、事務局より重層的支援体制整備事業の説明がございました。事業の3つの柱として相談支援、参加支援、地域づくりが挙げられておりました。また、委員相互の情報交換の場として、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた取組や課題について、9名の委員の皆様にはすばらしい活動報告をしていただきました。昨年度は、委員の皆様から今後継続したい取組として、地域課題を検討する場が欲しい、コロナ禍の中でも地域の中であつながらる方法を模索していきたい、誰でも気軽に集える場や仲間と活動できる場の実現に向けて取り組みたい等のご意見も出されておりました。今年度も各地域で委員の皆様と地域福祉コーディネーターが、人と人が多様につながりを深めるため居場所づくりや拠点づくりに取り組んでおられます。

本日は、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえたグループ企画事業を行っている、もとまち公民館と「たまりば」の会のグループ発表もでございます。委員の皆様との有意義な情報交換の場となることを期待しております。

誰もがが住みなれた地域で、安心して幸せに暮らし続けられる街の実現を目指し、本協議会活動へのご支援とご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

【小川副会長挨拶】

皆さん、こんにちは。ただいま副会長にご選出いただきました国分寺市社会福祉協議会の事務局長、小川と申します。この4月に赴任してまいりました。前職では、こちらの協議会、何度かお邪魔してまいりましたが、新しい視点で会長を補佐し、地域福祉の推進のために、この会がよりいい会となるように努めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の特段のご理解とご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

4 国分寺地域福祉推進協議会の運営について（事務局 米田）

（当日配付資料）国分寺市地域福祉推進協議会の運営について

国分寺市地域福祉推進協議会は、“誰もが共に認め支え合い自分らしく暮らせるまち”を基本理念とした国分寺市地域福祉計画に位置付けられ、地域で多様な活動に取り組む委員が、つながり、互いへの共感と学び合いの場として平成27年度より開催している。この間、新型コロナウイルス感染拡大防止策を踏まえた新たな視点による取組などの情報共有を行い、市報や市ホームページなどを通して当協議会の周知を図り、個人や活動団体より本日も新たな委員の御参加をいただいている。当協議会での交流が委員の御活動に活かされ、広がることを目指している。

（資料2）令和4年度国分寺市地域福祉推進協議会年間スケジュール

8月下旬に国分寺市地域福祉計画実施計画後期に係わる評価への御意見を頂戴し、10月、11月には委員の活動について中間集約をし、令和5年2月の第2回地域福祉推進協議会にて1年間の活動の振り返りを予定している。

5 グループワーク「新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた取組の共有」

始めに、事務局より資料説明を行った。

（資料3）令和4年度国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動情報・取組情報

（当日配布資料）正誤表

資料3は、委員の活動情報等を取りまとめた。当日配布資料の正誤表のとおり、14ページ上段やなぎ保育園菊地委員の活動分野「★その他の活動：保育・育児支援／児童・母子福祉」は、「★その他の活動：保育・育児支援／児童・母子福祉／障害者（児）福祉」が正しく、お詫びと訂正があった。

（資料4の1）地域福祉推進協議会に求めること

資料3の項目「地域福祉推進協議会に求めること」欄をテーマ別に集計した。グループワークテーマ「新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた取組」は、この資料を踏まえて設定した。

（資料4の2 差し替え）地域福祉推進協議会委員の活動地域

事前送付分に団体名誤記があったため、お詫びと差し替えがされた。資料3の項目「委員活動地域」欄を地域包括支援センターの担当区域ごとに整理し、市全域や複数の活動地域の委員は、団体所在地などによった。表の最終列は、資料3の該当ページである。

（地域福祉コーディネーター）、（権利擁護センターこくぶんじ）、（不登校・ひきこもり講演会）、（重層的支援体制整備事業講演会）パンフレット

資料5はグループワークで参照する。「地域福祉コーディネーター」及び「権利擁護センターこくぶんじ」の事業は、市の地域福祉計画等に位置付けられ、社会福祉協議会において運営されている。当推進協議会委員である地域福祉コーディネーター東地区担当の川合委員、西地区担当の川端委員、4月から市全域担当の野村委員、権利擁護センターこくぶんじ泉委員である。講演会2件を案内した。

【取組事例紹介】

（資料5）国分寺市立公民館だより「けやきの樹」令和4年1月15日号

令和3年度もとまち公民館グループ企画事業

“やっている人にきいてみよう”～子ども食堂から見えてくるみんなの居場所づくり～

もとまち公民館の久保館長、事業企画の「たまりば」の会より戸倉様、国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会の田中久美子委員から報告があった。

（久保館長）

もとまち公民館長の久保祐司と申します。よろしくお願ひいたします。存じ上げている方もいら

っしゃいますが、公民館には行ったことがないという方、手を挙げていただけますでしょうか。公民館になじみがなく、グループへの貸し館事業や、カルチャーセンターのような趣味的な講座を提供している施設、などのイメージをよく伺いますが、そうではないということを御説明したいと思えます。

公民館は市内に5か所、中学校区に1つずつ設置されています。中学校区とは、歩いていこうと思えば行ける、自転車ならば確実に行ける距離にあり、環境もどことなく似ているという区域になります。そして、各館には社会教育主事という資格を持つ職員が配属されています。5館の館長の中では私1人が社会教育主事を持っており、ちょっと自信を持って今日ここにきております。

公民館には管轄地域があり、もともち公民館は中央線の南側で、ハケがあり、昔本多地区であった地域で、新しい住民もいらっしゃる地域です。並木公民館は、比較的農地が残っている地域です。また公民館は、地域の課題の掘り起こしや社会問題解決のための糸口、地域の人物や歴史の再調査なども行っています。以前私がひかり公民館長だったとき、国分寺市出身の日本画家・佐藤多持さんの再評価という形で取り上げ、3回ほど多摩信用金庫の学芸員さんと呼んで講座を行うなど、地域に根差した講座を展開しています。毎月15日市報の裏1面・2面は公民館だより「けやきの樹」です。お手元の資料5です。

各公民館では年に数回、公民館で活動するグループが公民館講座として企画実施するグループ企画事業を行っています。地域課題に着目した企画として、「たまりば」の会さんから、子どもの居場所として子ども食堂を立ち上げるため、関係者が集まるシンポジウムやグループワークの企画提案がありました。オリンピック開催後、新型コロナウイルス感染症の感染状況が少し落ち着いてきたため、講師やパネラーの選定を基本的にグループに一任するグループ企画事業として、グループワークを含めて1月29日開催で準備を進めました。

そして、オミクロン株が1日数千人の感染拡大状況の中で開催時期が近づきました。リモート開催も考えましたが、今日、会開始前に皆さんがされていた名詞交換が、リモートだとどうしても難しいのです。講座はリモート開催でも、人と人とのつながりは、実際の活動はこうだが協力できますか、とか、こういう状況だが今度一緒にやれないか、など、相手の反応を感じ取りながらの交流が非常に大事です。これはどの講座でも同じで、公民館として対面開催を目指しました。新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、定員を半分以上の30人に設定したところ、応募は40人を超えました。子どもの居場所に思いをお持ちの方が集まり、情報交換を進めていただけるように、寒い中でしたが十分な換気に努め、グループワークの場所を確保して実施することができました。私からは以上です。ありがとうございました。

(田中委員)

国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会の田中です。「たまりば」の会に参加しています。公民館のグループ企画事業として今年1月29日に開催した“やっている人にきいてみよう”～子ども食堂から見えてくるみんなの居場所づくり～の取組について、「たまりば」の会の代表戸倉より、御報告させていただきます。よろしく申し上げます。

(戸倉氏)

皆さん、こんにちは。「たまりば」の会の戸倉です。どうぞよろしく申し上げます。公民館のグループ企画事業“やっている人にきいてみよう”の取組について御報告させていただきます。

「たまりば」の会は、2019年に、本町の空き店舗を御厚意で無償貸与いただけることとなり、地域の居場所づくりに取り組もうということから始まりました。その後、貸与期間が終わり、1年ほど前から活動拠点を探していました。場所もお金もなく、メンバーも7人程度の中で、居場所づ

くりの活動に難しさを感じていました。居場所づくりをしたいと思っている人や、場所やお金などが無いと悩んでいる人がつながり、活動へのいい知恵を出し合えるような取組ができたらと考えていたところ、もとまち公民館のグループ企画事業を知り、手を挙げました。「たまりば」の会の呼び掛けだけでなく、公民館の企画事業とさせていただいたおかげで、本当に思いがけなくたくさんの方に参加いただきました。府中市に近いもとまち公民館に、北町とか並木町とか、少し離れた地域からの参加もいただき、熱意をお持ちの方がたくさんいらっしゃるということを強く感じました。

開催方法について、公民館長さんなどからいろいろお知恵をいただき、3人の方の基調講演のあと、参加者がグループごとに部屋に分かれ、意見交換をすることができました。基調講演はやや密な場面がありましたが、部屋に分散しての意見交換は、適度な人数でとても良い話し合いが生まれ、おかげさまで大変好評でした。

先日の6月11日には、「やっている人になってみよう」をテーマに、ひかりプラザで続編を開催しました。第1回目の参加者が多かったのですが、新規の参加も若干名ありました。また、意見をもとに、居場所づくりの連絡会発足に向けて、準備しています。

以上のように取り組んできましたが、地域福祉コーディネーターさんや社会福祉協議会の方、そして多くの方に、大変多くのアドバイスやお手伝いをいただいてここまで進んでくることができました。本当に感謝しています。ありがとうございます。

現在「たまりば」の会では、月に1回本多公民館で、子どもに限らないみんなの食堂、みんなの居場所として、「たまりばの会 みんなの食堂」を開いています。居場所づくり連絡会も仮称「みんなの居場所づくり連絡会」として準備しています。「たまりばの会 みんなの食堂」は、第1回が5月15日にカレー、第2回は6月25日にナポリタンを作って行いました。第3回以降もどんどんアイデアが出てきて、走り続けられそうな予感がしています。会場の皆さんにもお力添えやお知恵をいただくことがあるかと思えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

～5分換気～

【グループワーク】

グループ内で自己紹介や活動内容の情報交換を行い、「新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた取組」をテーマにグループワークを行った。

- ・委員が取組でとても大事にしていることは、関わり触れ合うことであり、コロナの感染状況により、考え方の変更が必要なことを受け入れ、伝えていく難しさを感じている。最終的には対面にまさるものはなく、顔を合わせて近い距離で寄り添うことがすごく大事だと改めて気づいた。
- ・この2年ぐらいのコロナ禍で、話し合いや集まる機会が減り、オンライン会議などの試みもあるが、対面の話し合いの大切さを感じている。いろいろと活動の工夫をしているが、調理実習や飲食関係の活動ができなくなり、会員も減った。協議会は年2回の開催である。会として地域に根づいた活動をしていきたいが、方向性を共有するためにできれば開催回数を増やして、テーマごとに話し合うなどの工夫をしてほしい。
- ・委員の活動がそれぞれ異なり、コロナ禍でも関わり方は全く違うが、これまでとは形を変えるなどの模索や工夫の中で活動している。イベントがいつ開催されてもいように、日頃から練習、準備を続けることや、コロナ禍で人と人とのつながりが希薄になる中で、40年以上子どもの見守り活動を続けているなど、続けることのすごさ、大切さを改めて感じた。また、退院前の介護サービスの調整がコロナ禍で困難となり、退院後の生活に影響が生じているなど、様々な分野からの情報を共有することができた。

- ・コロナ禍にあっても、特に高齢者は、体力維持や免疫力向上のため、感染防止対策をしながら外に出ることが必要だと考えている。
- ・コロナ禍で活動が制限される中で、できる・できないではなく、何ができるか考えることを一番大切にしてきた。またコロナ禍だからこそ、孤立や孤独などの状況を生まないために意識している。少しずつ制限が緩和される中で、感染状況を見計らいながら、人が集まるための新たな形について検討を進めている。
- ・地域でお茶会を行っており、コロナ禍ではお弁当を取りに来てもらった。また健康体操指導の取組では、コロナ禍で公共施設の利用ガイドラインを作成しながら活動を継続した。地域活動を支援する中で、コロナ禍で活動団体が解散したり、認知症の進行や受診抑制で病状悪化などの状況が起きている。徒歩圏内での顔見知りの人とのつながりはとても大切だと感じている。若い世代の転入者が増え、自治会加入が進んだため、高齢化率にも変化がでている地域がある。都営住宅の空家は、災害時に避難者支援のためでもあるとの話があった。地域福祉推進協議会で横のつながりを強化できる機会があるとよい。
- ・取組等について多くの情報共有ができた。基本的な感染対策の下で、児童館の黙食再開や、訪問等の取組による身体機能の維持など、取組が前に進んでいることを確認し合うことができた。人とのつながりは、会うことがやはりすごく重要で、心身とも健康につながる。止まることがあっても悪いことではなく、制限がありつつも前に進む懸命の取組の中で、地域が支え合えるネットワークを見つけられるとよい。皆さんの懸命の取組を共有できて、とても有意義だった。

会長：皆様長時間お疲れさまでした。本日は、素晴らしい取組事例の発表や、グループワークをとおして多くの情報共有ができたのではないかと思います。グループから課題や要望も出ておりましたので、また皆様と共有しながら、ご検討いただければと思っております。

以上で議事が全て終了いたしました。本当にお疲れさまでした。まだまだ外は大変暑く、日差しも強いと思いますので、どうぞ皆様、お気をつけてお帰りください。

閉会 午後3時40分